

平成 23 年 7 月 26 日

各位

第 15 回放射線事故医療研究会
会 長 鈴 木 元

第 15 回放射線事故医療研究会開催のご案内

本年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とそれに引き続く東京電力福島第一原発事故は、私たちの想定を越す過酷事故となってしまった。これまで、地元の先生方との交流会で過酷事故は起きないと説明してきた研究会の幹事の一人として、真摯に反省すると共に、福島県の皆様には心からお詫びを申し上げたい。

1997 年に放射線事故医療研究会が設立されてから 15 年目を迎える。この研究会は、当時、原子力安全委員であられた青木芳朗先生のイニシアチブで設立され、現場で放射線管理を担っている保健物理専門家、被ばく医療の専門家、救急医療・災害医療の専門家、さらには原子力施設立地道府県の関係者同士が顔の見える関係を構築し、被ばく医療に関する情報交換をする場として機能してきた。一方、WHO・REMPAN や IAEA や米国の最新情報を紹介することを通じて、研究会では、グローバルな視野で被ばく医療を捉えようとする立場を堅持してきた。とりわけ、9.11 同時多発テロ以降、世界的に核・放射能テロ対策の構築が喫緊の課題として取り上げられ、国際機関では様々な対策指標や指針の改定がなされてきた。残念なことに、これらの指針は 2011 年段階で国内法へ反映されることはなかった。幸いなことに、私たちはいち早くこれらの対策指標や指針を紹介し、関係者間で情報共有してきた。今回の福島原発事故対応においては、これらの対策指標や指針が大変参考になったことを報告しておきたい。

第 15 回放射線事故医療研究会のテーマは、「東京電力福島第一原発事故を受けた緊急被ばく医療体制の再構築にむけて」である。今回の事故をうけ、我が国の原子力防災体制（さらには防災体制そのもの）の見直しが必至の情勢である。第 15 回研究会においては、私たちは原子力防災そのものを議論することはできないまでも、今回被ばく医療を実践してきた中で経験した現行被ばく医療体制の限界や問題点、さらには改善に向けた提言などを幅広く話し合いたいと思う。まずは問題点の抽出とその共有、それが緊急被ばく医療の再構築に向けた第一歩となると信ずるからである。

記

日 時： 2011 年 8 月 27 日（土）10:00～16:45

場 所： 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院 別館棟 5 階 講堂

大会長： 鈴木 元（国際医療福祉大学クリニック院長）

副大会長： 樺田尚樹（国立保健医療科学院 生活環境研究部長）

参加費等：（当日支払）参加費 2,000 円 懇親会費 3,000 円

参加登録： 同封の申込書に必要事項を記入の上、8 月 12 日（金）までに FAX または郵送、E-mail にて下記までご返送ください（定員 300 名）。

連絡先： 〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院・生活環境研究部

F A X : 048-458-6270 電話 : 048-458-6269

E-mail : *****@*****

その他： 年会費（5,000 円/年）も当日受付けしますので、宜しく願いいたします。

事務局： 放射線事故医療研究会（医療科学社 内 幸村良吾（こうむら））

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-11-9 ビクセルお茶の水 2F

TEL 03-3818-9821 FAX 03-3818-9371

<http://jammra.org/>

第 15 回放射線事故医療研究会

大会長： 鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック院長)
日 時： 2011 年 8 月 27 日 (土) 10:00～16:45
場 所： 国立保健医療科学院・別館棟 5 階講堂 (埼玉県和光市南 2-3-6)
テ ー マ： 「東京電力福島第一原発事故を受けた緊急被ばく医療体制の再構築にむけて」

プログラム

(敬称略)

9:30 受付開始

10:00 開演

開会の挨拶 大会長 鈴木 元 (国際医療福祉大学)

10:15 - 11:15 基調講演

座長 神谷研二 (広島大学)

演者 鈴木 元 (国際医療福祉大学)

「緊急被ばく医療の現状と将来の展望」

11:15 - 11:25 休憩

11:25 - 12:00 総会

会計報告・事務局変更

庶務幹事 衣笠達也

組織問題 (放射線事故医療学会設立へ向けた取り組み)

代表幹事 前川和彦

12:00 - 13:00 昼食

13:00 - 15:20 シンポジウム 「東京電力福島第一原発事故時の緊急被ばく医療」

座長 明石真言 (独立行政法人放射線医学総合研究所)・宮川清 (東京大学)

緊急時住民対策の概要

金谷泰宏 (国立保健医療科学院)

オフサイトセンター等での活動

富永隆子 (独立行政法人放射線医学総合研究所)

小児甲状腺モニタリング

鈴木敏和 (独立行政法人放射線医学総合研究所)

飲食物の放射能モニタリング

樫田尚樹 (国立保健医療科学院)

緊急時環境モニタリング

百瀬琢磨 (独立行政法人日本原子力研究開発機構)

防災作業員の健康管理

衣笠達也 (三菱重工神戸造船)

福島医大被ばく医療班の取り組み

長谷川有史 (福島県立医科大学)

日本放射線技師会の福島での取り組み

諸澄邦彦 (埼玉県立がんセンター)

15:20 - 15:40 休憩

15:40 - 16:40 パネルディスカッション 「将来の緊急被ばく医療の課題」

座長 前川和彦 (フジ虎ノ門整形外科病院)・鈴木 元 (国際医療福祉大学)

16:40 次期大会長 挨拶 明石真言 (独立行政法人放射線医学総合研究所)

16:45 閉会

17:00 懇親会：保健医療科学院内レストラン
(酒類持込可)

国立保健医療科学院アクセスマップ



住所 〒351-0197 埼玉県和光市南2丁目3-6

電話 048-458-6111 (代表)

交通 東武東上線・東京メトロ（有楽町線・副都心線）「和光市」駅 下車（徒歩約25分）
【バス利用の方】和光市駅南口より（東武バスは南口正面、西武バスは左側）
・東武バス[和01] を利用し（約15分）、「税務大学校」下車（徒歩3分）、
又は[和06][和08]を利用し(約15分)「税務大学校正門」下車(徒歩2分)
・西武バス[泉39]を利用し(約15分)、「税務大学校和光校舎」下車(徒歩3分)

バス時刻表 東武バス[和01]・[和06][和08]、西武バス[泉39](土曜を参照)

国立保健医療科学院
生活環境研究部 宛
351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6
F A X : 0 4 8-4 5 8-6 2 7 0
E-mail : *****@*****

参加申込書

ご参加の場合は必要事項をご記入の上、8月12日（金）迄にF A Xまたは郵送、E-mailにてご返信ください。

◎ 第15回放射線事故医療研究会

(会費：2,000 円) [参加 ・ 不参加]

[放射線事故医療研究会 会員 ・ 非会員]

◎ 懇親会

(会 費：3,000 円) [参加 ・ 不参加]

(ふりがな) _____ (「ふりがな」は、必ずご記入願います。)

氏 名： _____

所属機関名称： _____

所属機関住所：(〒 _____ - _____) _____

電 話： _____ F A X : _____

E-mail : _____

※ご自宅をご連絡先とされる場合は、以下にご記入ください。

自宅住所：(〒 _____ - _____) _____

電 話： _____ F A X : _____

E-mail : _____

【ご連絡欄】

※ご記入いただいた個人情報は、本研究会及び当該道府県での被ばく医療に関する業務以外には使用いたしません。